

1
2 新型コロナウイルス感染症に関する最近の動向について

3 2021年3月31日

4 日本医師会 定例記者会見

5
6 会長の中川俊男です。よろしく申し上げます。

7
8 (老健局)

9 最初に、厚生労働省老健局職員の送別会についてです。20人以上で深夜まで
10 飲食をしたという報道に、率直に、耳を疑いました。

11 緊急事態宣言をなんとか解除した矢先の事で衝撃を受けました。第三波が収
12 束しないなかでの解除の意味を理解できていなかったのかと、きわめて遺憾に
13 思います。

14 日本医師会は、一年に渡って国民の皆さんに自粛という我慢をお願いしてき
15 ました。今回の無自覚な行動は、国民への背信であると同時に、コロナ対策に日
16 夜、真摯に取り組んでいる医療関係者や、同僚である厚生労働省職員の努力を
17 踏みにじる行為です。本当に残念です。

18
19 厚生労働省には、1日も早く国民の信頼を取り戻してほしい。取り戻す努力を
20 国民に見せてほしい。また、厚生労働省はじめ政府には、徹底した感染者の抑制
21 こそが終息への近道であることをあらためて理解してほしいと思います。

22
23 (感染対策)

24 次に、直近の感染状況についてです。

25 昨日30日の新型コロナの新規感染者数は全国で2,085人でした。

26 大阪府は、宣言解除後最多の432人で、特措法の「まん延防止等重点措置」
27 の適用を国に要請する意向を示しています。兵庫県も宣言解除後最多の176人
28 です。東京都は前の週の同じ曜日を11日連続で上回る364人で、1週間の移動
29 平均は前の週の117.4%です。全国的にも感染再拡大の傾向が強くなっていま
30 す。

31
32 近畿3府県の緊急事態宣言は、2月28日に先行解除されています。首都圏1
33 都3県の解除は3月21日で、今の感染者数はそれ以前の数字です。

1 近畿 3 府県の感染状況をみれば、今後、首都圏の感染者も同様に一気に増加
2 していくことが強く予測されます。

3 また、宮城県、山形県、愛媛県、沖縄県などでも感染者が急増しています。地
4 方で、加速度的に感染が拡大すると、医療提供体制はより危機的な状況に陥り
5 ます。

6 そのうえで、二点申し上げます。

7 第一に、政府、自治体に実効性のある施策の実施を要請します。政府が示した
8 5つの柱である「飲食の感染対策」、「変異株対策の強化」、「モニタリング検査な
9 ど感染拡大防止策の強化」、「ワクチン接種の着実な推進」、「医療提供体制の充
10 実」を総合的に地域の実情にあわせ着実に全国で進めることです。

11 第二に、感染拡大が見られる地域に対して、早め早めの手を打つことです。ま
12 ずは、早い時点で「まん延防止等重点措置」を適用するべきです。

13 第4波が本格化すれば緊急事態宣言の再度の発令も視野に入れなければなり
14 ません。さらに、基本的対処方針の見直しも必要です。宣言の解除はステージ2
15 以下と明確化すべきです。

16

17 (医療提供体制とワクチン)

18 次に、医療の立場から、医療提供体制の整備とワクチン接種の推進について
19 です。

20 先週の記者会見で、厚生労働省が、3月24日に「今後の感染拡大に備えた新
21 型コロナウイルス感染症の医療提供体制整備について」の事務連絡を発出した
22 ことをお伝えしました。

23

24 この中で、自宅療養者に対する健康観察業務や、往診・オンライン診療などの
25 在宅医療を地域の医師会に業務委託することなども示されています。

26 山形県の場合、自宅療養者は3月23日は7人でしたが、3月29日には152
27 人になり、わずか1週間で、145人増加しました。

28 山形県医師会および県内郡市医師会は、山形県からの要請を受けて、自宅療
29 養・宿泊療養患者に対する電話診療を行う協力医の確保に努め、現在のところ
30 50人以上の医師会員の申し出をうけています。

31 日本医師会、四病協、全国自治体病院協議会が「新型コロナウイルス感染症患
32 者受入病床確保対策会議」を立ち上げ、6点{(1)都道府県医師会、都道府県病
33 院団体及び支部による協議会の立ち上げ、(2)協議会による情報共有の仕組み

1 の構築・活用、(3) 受入病床の確保策、(4) 後方支援病床の確保策、(5) 宿泊
2 療養施設や自宅療養の充実、(6) 地域の医師・看護師等の派遣等、} の具体的方
3 策をまとめたことはすでにお伝えしました。この結果、退院基準の周知徹底に
4 よる後方支援医療機関の確保が進んでいます。今後は、医療提供体制の強化は
5 各地域で面としての機能強化という観点に注力して進めていくことで一致して
6 います。

7

8 ワクチン接種については、現在、全国の医師会や医療機関では、皆さんの接種
9 が円滑にできるよう、接種体制の構築に全力で取り組んでいます。具体的には、
10 接種施設に滞りなくワクチンが配送される仕組みづくりや、接種の予約、また
11 接種当日は、密にならないよう動線を確認し、受付、予診、接種、接種後の健康
12 観察、万が一接種後に体調が悪くなった場合の対応がスムーズに行えるよう、
13 協議やシミュレーションを進めています。

14 そして、希望される方が安心、安全に接種を受けていただくため、日本医師会
15 では、ワクチンの有効性と安全性（副反応）について、皆様へ迅速な情報提供に
16 努めてまいります。ワクチン接種の本格化に向けて、国民向けホームページを
17 刷新します。

18 また、全国の医療従事者からは、ワクチンがまだ来ないのかという問い合わ
19 せが殺到しています。政府の一日でも早いワクチンの配送を強く要請し続けま
20 す。なお、4月12日の週からは相当量のワクチンが配送される見込みになっ
21 ています。

22 （呼びかけ）

23 今、確実に第4波に向かっていきます。見方を変えてみると、これまで寄せては
24 返すように第1波、第2波、第3波が襲来しましたが、ずっと一連のものだった
25 のではないか、これまで実は本格的に押し返したことは一度もなかったのでは
26 ないかと感じます。

27 冒頭に申し上げた厚生労働省の老健局はコロナ対策を中心的に担当してはい
28 ません。つまり、同じ厚生労働省内でさえも、コロナに対し大きな温度差がある
29 と思われまます。

30 このことは、コロナを「自分ごと」として捉えにくい国民の皆様にとって、自
31 粛の徹底がいかに難しいかを示しています。周囲の人々が傍観せず、行き過ぎ
32 た行動を止めて、お互い励ましあって乗り切ることが大切です。

33

1 長くてもあと半年程度でワクチン接種が円滑に進む見込みです。

2 その時まで、感染拡大を防止するための対策を続けなければなりません。今
3 一度、初心に立ち返って「うつらない」「うつさない」を合言葉に、基本的な感
4 染防止対策と、「感染リスクが高まる場面」の回避、「換気を怠らない」などの徹
5 底をあらためてお願いいたします。

6

7 新型コロナウイルス感染症との闘いは、重大な局面に立っています。

8 「政府・自治体の実効性のある施策」、「医療提供体制の整備とワクチン接種
9 の推進」、「日常の感染防止対策の徹底」が三位一体となることで、新型コロナに
10 立ち向かい、打ち勝つことができると考えています。

11

12

13

14

15

16

17

18